

# ヒト・モノ・企業のグッジョブ

## 沖縄伝統空手

沖縄を飛び出し、県外や海外で認められているヒトやモノ・コト、企業のあふれるパワーをお届けします。



今回のグッジョブは世界の空手のルーツとされる「沖縄の伝統空手」が主役です。

沖縄の空手・古武道は県の無形文化財に指定されているのよ。

沖縄伝統空手道世界大会などの大会が行われる「県立武道館」

発祥の地から世界へと広がる「沖縄伝統空手」

今や世界百八十八カ国、五千万人以上に広がる空手人口。そのルーツは約七百年前といわれ、「手(てい)」と呼ばれる琉球在来の武術に、中国伝来の武術が融合して発達したとされています。優れた文化遺産である沖縄の空手・古武道は県の無形文化財に指定され、空手家九名を保持者として認定。学校教育の現場でも積極的に関与を取り入れています。



沖縄伝統空手道振興会事務局長 沖繩少林流空手道国際連盟理事長 沖繩少林流空手道立志館館長 範士十段 喜友名朝孝さん

沖縄伝統空手の基本は、ナイハンチやクワンサークに代表される「型」。ひとつの型を何千回、何万回と繰り返して修得することを重視し、鍛錬を通して肉体と精神を磨き高めることが最大の特徴です。「琉球における空手は漢学などの学問とともに土族のたしなみだった」と話すのは、「沖縄伝統空手道振興会」の事務局長、喜友名朝孝さん。空手道場館長として多くの門下生を指導しています。

振興会の発足が沖縄伝統空手への想いを結束

同振興会は仲井眞県知事を会長に県内空手四団体が構成され、沖縄の空手道・古武道を世界の武道として普及・発展させ、伝統空手道を振興する目的で平成二十二年に発足されました。翌年には振興会設立記念として「沖縄伝統空手道世界大会」が県立武道館で開催され、世界四十三カ国、地域からの八百七十二人を含む総勢六千人以上が



県内主要空手4団体が所属する「沖縄伝統空手道振興会」の役員の方々

参加。空手の本場・発祥の地「沖縄」を世界に広くアピールするワールドワイドな大会となりました。振興会の各団体では、今年十月に開催される世界のウチナーンチュ大会に向けても、空手演武の出演者向けに県内・海外でセミナーを行うなどして準備を進めています。

沖縄伝統空手もたらす「美ら島の未来」

年齢や体力に限界がある競技空手と違い、伝統空手は何歳からでもはじめられ、高齢でも続けられるのが魅力。健康長寿や平和の象徴として、今後ますます世界から注

### 活躍する継承者さん

歴史ある沖縄の伝統空手を次の世代に正しく伝えたい。

沖繩少林流空手道立志館助手 三段 タイ又吉さん



稽古に熱心なタイ又吉さんをご紹介します。



猫だましの技などが入ったワンスーの型を披露するタイさん

道場に通うわが子に刺激を受け、十年前に空手をはじめました。世界大会では英語の通訳として、少年少女空手道大会では審判として参加。親子ともに人前に出るのが苦手でしたが、精神面で強くなり、前より積極的になりました。伝統空手はひとつの型の修得に数年かかり、やればやるほど奥が深い武道。世界中に広まる空手のルーツが沖縄にあることを誇りに精進し続けたい。



沖繩少林流空手道立志館で空手の稽古に励む子どもたち

目されるチャンスが秘めています。「沖縄伝統空手の魅力や位置づけをアピールするには、琉球王国の伝統文化を総合的に発信する必要性がある」と喜友名さん。「型を演ずる際の腰の入れ方、視線、演武のしなやかさや呼吸など、空手は琉球舞踊との共通点が多い」と語り、琉球の伝統文化が相互に影響し発展してきたことを示唆。

伝統として受け継がれてきたことがポイントね。



世界から認められたポイント!

「一四七七年の尚真王の即位以降、国王は芸術文化を奨励し、中国との交易も盛んになった。琉球が最も平和で栄えた時代を背景に伝統空手が生まれ、長い歴史の中で型が確立されました。一つひとつの型に深い意味があります」と喜友名さん。武器を持たない王国の平和を尊ぶ民族性、独自の哲学や高い精神性が息づく伝統空手は、まさに世界に誇れる沖縄固有の伝統文化といえるのです。



子どもたちに組手の指導を行う喜友名さん